

第594回茨城県内水面漁場管理委員会 議事録

日 時	令和4年7月29日（金） 午後1時55分から
場 所	水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階 共用会議室A
議 題	第1号議案 さけ特別採捕許可について（協議）
報告事項	(1) 令和4年度全国内水面漁場管理委員会連合会総会の結果について (2) 茨城県におけるアユの調査報告について (3) 久慈川アユ友釣り教室の開催状況について (4) 第3期茨城県水産試験場中期運営計画（令和4年度～令和7年度）について
出席委員	1番 高杉 則行 2番 小林 益三 3番 水野 恵美子 5番 坂本 勉 6番 八角 直道 7番 鈴木 好三 11番 堤 隆雄 12番 多田 悦章
欠席委員	8番 高津 武弘 10番 星井 晴美
県側出席者	農林水産部次長兼漁政課長 青木 雅志 " 漁政課課長補佐 鴨下 真吾 " 主任 松井 俊幸 " 水産振興課係長 藤江 隆司 水産試験場内水面支場技佐兼支場長 海老沢 良忠 " 技師 高濱 優太
傍聴人	2名
事務局	事務局長 根本 孝 副主査 細金 正勇 主任 小沼 智恵美
議事録署名人	3番 水野 恵美子 11番 堤 隆雄
議長	1番 高杉 則行
会議内容	開会 午後1時55分
根本事務局長	〔開会宣言〕

〔資料確認、高杉会長に挨拶を依頼〕

高杉会長

本日は、茨城県内水面漁場管理委員会を開催しましたところ、委員の皆様には、お忙しい中、また、暑い中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、鬼怒小貝の役員の皆様には、度々の傍聴ありがとうございます。御礼申し上げます。コロナの第7波の感染がなかなか収まりません。ウイルスは進化してまいりますので、なかなか終息が見通せない状況になっています。委員の皆様も、自己管理に努めて、お互いに感染には気を付けましょう。

今日の議題でございますが、さけの特別採捕許可についての議題が1点と、報告事項が4点ございます。最後までのご協力をお願い申し上げまして、簡単ではありますが、挨拶にかえさせていただきます。よろしく願いいたします。

根本事務局長

ありがとうございました。

議長の選出ですが、当委員会の会議規程第4条第1項の規定により、会長が議長となることになっておりますので、高杉会長に議長をお願いいたします。

高杉議長

では、議長を務めさせていただきます。

早速ですが、次第3の出席委員数の報告を事務局からお願いいたします。

根本事務局長

はい、現委員10名のうち、本日出席委員は8名です。欠席委員は2名で、高津委員と星井委員でございます。本日、過半数の委員の出席をいただいておりますので、漁業法第173条の規定により、本委員会は成立しております。

高杉議長

はい、ありがとうございました。続きまして、次第4の議事録署名人ですが、会議規程第7条第2項の規定に基づき、私から指名をいたします。

3番水野委員と11番堤委員にそれぞれお願いをいたします。

それでは、次第5の議題に入ります。

第1号議案、「さけ特別採捕許可について」説明をお願いいたします。

松井主任

(資料1-1、1-2、1-3により説明)

高杉議長

ありがとうございました。ただ今の説明について、何かありませんか。堤委員、どうぞ。

11番 堤委員

昨年度はだいぶ不漁だと聞いているんですが、現場の声をお聞かせいただければありがたいです。

高杉議長

久慈川ですが、去年は、雌が1本とれたのですが、その時期に不幸なことに雄がいなかったもんですから、採卵が0だったんですね。久慈川で、さけのふ化事業を40年以上やっているといると思うのですが、おそらくふ化ができなかった

のは初めてです。それと、先程の漁政課からの説明にもあったように、地球温暖化の関係もあるんでしょうけど、捕れる時期がずれているんですよね。今、特に流し網をやっている人達が、さけが捕れないということで、期間を少しずらしてほしいという要望書が出ています。おそらく那珂川も同じような希望があると思うんですが、久慈川ではそういった状況になっています。今年度につきましても、水産庁の見立ては、あまり芳しくないんですよね。

2番 小林委員

那珂川では、雌が11本で、雄が足りない。雄がないので、6.8kgほどしか卵がとれない。放流したのが2万8千尾くらいで、大苦戦でしたね。今年はどうなるか今のところ分からないですが。

11番 堤委員

遅れてから少しは上がったんですか。

高杉議長

鬼怒小貝や那珂川は、少しはとれたのでしょくけど、それでも最盛期に比べると、10分の1以下ですよ。

11番 堤委員

分かりました。

高杉議長

八角委員、どうぞ。

6番 八角委員

昨日、さけ調整会議があり、その中で資源状況の話が出ましたが、昨年度に続いて極端な不漁になるとの予測なんですね、日本海も太平洋側も。去年は、久慈川と那珂川がとれない状況だったので、鬼怒小貝さんに通常の飼育の量を下げていただいて、こちらに回してもらって国の補助事業をやったという状況で、本当に極めて厳しい状況です。6月の終わりに水研の方に来ていただいて、これだけ卵がとれないという状況なのでどうしようかとの話をしたんですけども、これはまだ相手方には話してはいないんですが、福島県さけます増殖協会にお願いをして、受精卵を買ってもらって、それを発眼卵まで飼育してもらってうちが買うということで、卵の確保ができないかなとふ化場のある各漁協さんと話をしています。受精卵は車のちょっとした振動でも弱ってしまい、また5時間くらいで死んでしまうので、発眼卵であれば、ちょっとした振動は大丈夫なので、福島県さんをお願いできないかと考えています。そうでないと、県の方でも特別採捕許可を段々出さなくなるのではないかと思います。今年、遺伝的になく乱が起きるとよくないという水産試験場の指導もありまして、県外から持ってこないで様子を見てみよう。他の県の様子を見てみると、岩手とか宮城も例年の20から30%といった状況なので、あちらも他の県から持ってこないとしょうがないということで、山形県の一番北の河川のふ化場から受精卵を持ってきてなんとかしのいでいるといった状況です。どの県も、背に腹は代えられないといった状況で、卵の確保に必死になっています。

高杉議長

ありがとうございました。八角委員から助言をいただきましたが、去年は、久慈川は鬼怒小貝さんにお世話になって、国の事業をやったんですよね。先程もありましたが、水産試験場の方で、卵の病気の心配をしているものですから、そういったクリアしていなくってはならない部分もあると思います。今後、水産試験場の指導をいただきながらやっていきたいと思っておりますけれども、ただ、いかんせん自前でふ化事業ができないということもございまして、頭を痛めているんですよね。例年ですと、来月の頭あたりには遡上していたんですけどね。状況をみないと分からないですけども、茨城県沖の海水温が急に低くなることも考えられないので、厳しいかなと思っておりますね。

そのほか、ございませんか。

水野委員、どうぞ。

3番 水野委員

海流の変化とか温暖化の影響とか、当然あると思うのですが、それだけではない原因が色々あると思うんですね。その原因は、はっきり分かってはいないのですか。それとも、海外の方がたくさん獲ってしまうとか、そういったことが原因の1つとしてあり得るのでしょうか。もしそういったものがあるのであれば、早急に手を打たないと、茨城県だけではなく、他でも危機を感じるような数字があがってきているので、なんとかしなくてはならないと思うのですが、そういった対策は、国としてはどのような形で動いているのですか。

高杉議長

水産庁の答えでもはっきりとした対応は出ていないのですが、当然地球温暖化で海水温が上昇しているということもありますし、国の事業で進めている密度の関係もあったり、あるいはどの大きさで放流するのがベターなのかということも、色々試行錯誤しながらやっちはいるんですけどもね。先程おっしゃられたように、さけはオホーツク海から向こうに行くと、ロシアが獲ったりしますので、そういうこともありますし、さけそのものが弱い体質になっているのではないかといった話もありまして、諸々の情勢が重なって今日の不漁になっているんだと思うんですけどね。水産庁でも、北海道大学でさけを獲って、センサーのようなものをつけて、それを追って色々やったりはしているみたいで、ただ、実施したのが昨年頃だと思うので、答えが出るのは先かと思いますが、水産庁でも色々北海道大学と協力し合って調査は進めているみたいです。難しい問題ですね。自然環境の変化が一番大きいのではないかと、私は思っているんですけども。

そのほか、ございませんか。

八角委員、どうぞ。

6番 八角委員

先日テレビの特集で、地球温暖化の話がありまして、海水温が高くなって、海水にCO₂がどんどん溶けるので、海水のpHが下がってしまっていて、カルシウムを殻にもっているプランクトンなどの殻が溶けてしまい、殻がなくて生きていけなくて、さけの餌になる動物プランクトンが少なくなっている、

そんなことがあるんじゃないかという番組だったんですけども、先程会長がお話ししたように、はっきり原因が分からないので、水産庁が今進めているのは、サイズを大きくして、海に出たときになるべく生き延びられるようにしよう、それから飼育密度を下げて、健康な成育状態で海へ放流して、生き残れるようにしよう、そういった考えで試験をやっているんですね。なので、今、人間が考えられることは全てやって、後は天に任せようということだと思います。

高杉議長

ありがとうございました。

そのほか、意見はございませんでしょうか。

意見もないようですので、原案のとおり取り扱うことに了承いたします。

それでは、次に次第6の報告事項に移ります。「(1) 令和4年度全国内水面漁場管理委員会連合会総会の結果について」説明をお願いします。

小沼主任

(資料2-1により説明)

高杉議長

ありがとうございました。

このミズワタクチビルケイソウというのは、塩分に弱いということですか。

小沼主任

水産庁の資料にも、殺藻方法として、5%以上の食塩水に1分以上浸すとありますので、塩分に弱いということだと思います。

高杉議長

分かりました。そのほか、何かございますか。

高濱さん、どうぞ。

高濱技師

水産試験場内水面支場の高濱です。先程から話題に出ておりますミズワタクチビルケイソウについて、補足させていただきます。ミズワタクチビルケイソウは近年になって侵入が確認されている藻類でして、水産庁の資料にもありますとおり、川底に茶色く生える藻類でして、2006年以降、国内各河川で侵入が拡大しています。水産試験場内水面支場においても、令和3年に那珂川の千代橋のところで初めて確認しています。川底を茶色く厚く覆うので、景観の悪化や、生態系への悪影響が懸念されております。この藻類自体に、粘着性、ぬめりがありますので、アユ釣りなどをされる際に、釣り糸に絡まったり、転んでしまう恐れがあります。釣具やウェーダーに付いて、他の川に広げるという可能性がありますので、食塩水につけたり、お湯に浸すといった対策を水産庁が推奨しているというものになります。以上です。

高杉議長

ありがとうございました。水産試験場の補足説明を含めて、何かございませんか。

多田委員、どうぞ。

1 2 番 多田委員	このミズワタクチビルケイソウは、関東近辺の河川では、どの河川にいと 考えられているのですか。どの辺まで、利根川の方まで侵入しているのですか。
高濱技師	利根川の方までは確認していませんけれども、那珂川の千代橋では確認 しておりますので、石にこびりついているようなものなので、そこから剥がれ れば、下流の方へ流れて拡がっているという可能性はあると思います。
1 2 番 多田委員	湖とかそういったところにでも繁茂するのですか。
高濱技師	基本的には、川底にある石で、流れがあるところですね。
1 2 番 多田委員	分かりました。ありがとうございます。
高杉議長	海老沢支場長、どうぞ。
海老沢支場長	関東近県の色んな河川で、残念ながら見つかっていて、那珂川もすでに過去 に栃木県の方では見つかったもので、遅かれ早かれという状況の中で、昨年 茨城でも見つかったということです。ただ、繁茂する適水温が結構冷たい温度 で、10℃から15℃くらいということなので、恐らく1回夏は枯れてなくな ると。春先の時期に少し増えますが、河川一面という状況はまだ確認されてお りません。あまり油断してはいけないのですが、恐らく下流の方までという状 況ではなく、もう少し上流部のところかということかと思えます。
1 2 番 多田委員	ありがとうございました。
高杉議長	鈴木委員、どうぞ。
7 番 鈴木委員	このミズワタクチビルケイソウは、久慈川ではどれくらい上流まで生えてい るのですか。
高杉議長	久慈川は入っていないですね、那珂川だけですね。
海老沢支場長	久慈川では、まだ確認していません。
高杉議長	ただ、先程説明があったように、釣り人がウェーダーつけて、那珂川でアユ が釣れないからそのまま久慈川にきてやろうとすると、そのウェーダーについ ていて、そこから増えるという危険性はあると思いますね。おとりの病気と一 緒ですね。今は、他の河川におとりを持ち込まないようにということになって いますよね、暗黙の了解といいますか。あとは自然に生えるんでしょうね。た だ、久慈川は、夏かなり水温が高くなるので、生き残れないかもしれないです

ね。真夏喝水したときは、かなりの水温になりますから。

7番 鈴木委員 だいたい何℃くらいでこのミズワタクチビルケイソウはなくなるんですか。

海老沢支場長 適水温は10℃から15℃程度で、20℃になると完全に死滅するかというと、流れて一部種は少し残っていて、翌年適水温になると増えるということを繰り返しているかと思います。

7番 鈴木委員 今年の久慈川の最高水温は、33.5℃です。外気温が35℃だと、だいたい31から32℃、40℃近くなると、33.5℃くらいになってしまう。

高杉議長 ぬるく感じますよね、ぬるま湯に入っているような。アユも冷たいところに行ってしまうよね。湧水が湧いたり、支流から冷たい水が入ってくるようなところに逃げ込んでますよね。

八角委員、どうぞ。

6番 八角委員 体は単体にもなってしまうのですか。粘着性があるから、糸状になるのかとも思うのですが、顕微鏡で見るとどのような感じなのですか。

海老沢支場長 顕微鏡で見ると、唇の形で真ん中に筋がありまして、ラグビーボールを潰したような形をしていて、それが重なって綿状になっています。

高杉議長 あまり来てほしくないですね。

そのほか、ございませんかね。

ないようですので、「(2)茨城県におけるアユの調査報告について」説明をお願いします。

高濱技師 (資料3により説明)

高杉議長 ありがとうございます。ただ今の説明について何かございましたら、お願いします。

鈴木委員、どうぞ。

7番 鈴木委員 遡上の件なんですけど、今現在大子では、遡上してくる天然アユが99%いません。稚魚が6億尾流下しているとのことですが、何%くらい久慈川を遡上するのですか。

高濱技師 我々の方で、毎年釣りで釣られたアユについて、6月から8月にかけて、いくつかサンプルを見て、天然なのか放流されたものなのか割合をみているんですけども、昨年だと、袋田のあたりで釣られたアユをみたのですが、概ね7割

近くは天然もの、3割が放流したものだという記録をとっています。年によって変動はありますが、平均的には5割以上は天然ものだと思っております。

7番 鈴木委員

そうですか。私も釣りを大子でやっているんですけども、成育しているアユがないんですよね。天然物の15cmから18cmのものは、5時間やって1匹かかるくらいです。放流ものはみんな遡上してしまうというんですが、全然遡上していないんですよ。久慈川と押川の合流点があり、そこから4km下流に大子地区の組合員は放流しているんですが、そこから遡上して上がってくるかという、1匹もないんですよ。全然釣れない。下野宮地区は、解禁の時にどこに放すかという、1kmくらいしか移動しないからと、近くの橋の下に放流しています。解禁の日に釣れる人で64匹かかって、あまり上手じゃない人でも30匹釣ったと。大子地区はというと、消防署の脇で、20人程並んでやっていたんですが、1匹釣れるか釣れない人ばかりだったですよ。私も1日に、消防署の脇に行って釣りをやったんですが、今年はどこがかかるかな、どんな性質かなと思ってやったのですが、消防署の上は、砂が溜まるようなところしかアユが釣れないんですよ。アユを飼育していた水槽の直径の5mから10mくらいのところで回遊していて、急な水流のところには住めないですよ。6月の下旬頃ですか、福島の方で洪水があると、その泥水ですべてアユが下ってしまうんですよ。だから、今どこにいるんですかと釣り人に聞くと、上小川地区と山方地区しか釣れないと言うんですね。大子地区にはアユがないんですよ。下野宮で釣れるからと行ったんですが、18匹釣れたんですよ。18匹のうち、きれいなアユが3匹かかったんです。久慈川漁協で飼っていたアユとは違うなと思い、下野宮の組合に聞いたら、うちで放したものだということで、みんな下ってきているんですね。上小川地区の人は、盛金などに放流するのですが、それがみんな山方に下ってしまう。急な流れのあるところでは、1匹も釣れません。天然物が釣れるのかなと行ってみても、久慈川で2万匹、3万匹上がってきたって、あの面積で一体どこに住んでいるか分からない。今現在、釣り教室なんかでみても、久慈川では1匹も釣れません。名人というか我々が見ても、押川のところしか釣れないんですね。私も釣りをするときに見るのですが、放流アユは、放流キロ数が出てるんですよ。この区間は300kgとか。その前後1kmくらいしかアユは生息していないんですね。運んできた人に、このアユはいつ頃とったのかと聞くと、2月末頃にとって、それから2ヶ月間水槽で飼っていたと。餌はと聞くと、1日朝晩2回やると。それで学習してしまって、群れだしてしまっているんですよ。だから、遡上しないんです。水流の早いところには住めないですよ。下野宮で釣れるからと行ってみたら、砂が溜まっているんですよ。緩やかなところしか釣れていない。舟生の先に、農業用のブロックを積んだような堰があるんですが、そこにぶつかってアユが上がれないんですよ。今年は川の上は全くいません。

高杉議長

いいですか。今年大子地区が釣れないのは特別だと思います。もともとアユ

は遡上する性質があるということで、下流に放流しているのです。うちでは、鈴木委員ご存じのように、静岡の河口ですくった天然に近いものを静岡の内漁連が育てているのですが、これは天然アユに近いアユなので、みるみるうちに遡上します。大子の管内が釣れないのは、来年調べてみないと分かりません。それと、高濱さんが言っていた天然アユと放流アユの比率ですが、下野宮と袋田で、釣ったアユを毎月出していただいている、サンプル調査を水産試験場とやっているんですが、その傾向を長いこと見ると、6月は放流アユが多いんですよ。7月以降になると、天然アユが多くなってきます。6月の解禁日に、だいたいその河川の評判が決まっちゃうので、20cm近いアユを解禁日に釣ってもらうためにやったのですが、そういった意味では、今年は成功したんですよ。ただ、大子地区でかからないのは想定外でしたけども。それと、今、山方と大宮に止まっているというのは、ここのところ雨が降らないので、毎日雷雨はきているんですが、もう何か月も1mくらいの増水がないんですよ。そんなこともあって、天然遡上のアユが止まっているんです。山方・大宮が釣れるというのは、そういうことなんですよ。天然遡上のアユが、大子まで上ってこられないんですね。本来でしたら、もう7月終わりなので、天然アユが20cmくらいになって、バンバン釣れなくてはならない時期なんですよ、今年は特殊なんですよ。上流はアオノロが貼っていて、それくらい雨が降らない。そういう自然の状況が今シーズンは特別なのかなとは思っているのですが。このままいくと、大宮の教室の方がかかるかもしれません。毎日雷雨があっても、今年は1m以上増水する、川の水がリセットするような雨が降っていないのです。それと、うちも人工産のアユを少し放流してますけど、鈴木委員がおっしゃるように、まとまってグループになって泳いでいるような性質があるかもしれません。ただ、放流したアユが全部下って上らないということではないと思います。アユはもともと遡上する性質がありますから、上流に良い餌場があれば、そこに付くんですよ。今年は雨が降らず、川をリセットしてくれないといった状況があって、アユがそういうことになっている。確かにアユそのものの性質も、毎年交雑してしまっていて、以前のような久慈川に住んでいたえびすアユというんですかね、そういったアユはいなくなってしまったかもしれませんが、そんな中でも、水産試験場は色々努力してやっていますので、我々もそれに協力して、1匹でも多く釣り人に釣ってほしいということでやっています。

7番 鈴木委員

分かりました。天然遡上があるというなら、那珂川はどうかということで行ってみると、釣り人が5人くらいしかいないんですよ。なぜかということ、天然物が0ということなんです。久慈川は上ってきていなくて、那珂川も釣れてもいいんですけど、全然釣れないというんです。CO2の問題で、ペーハーが7.5から7.7あるというので、水生植物が死んでしまっている。また、アオノロが貼って釣りができない。そういったことを考えて、今後、遡上アユ調査をやるときには、大子の辺りまで来て投網をやらせてもらって、そういうのを1回出してもらいたいなと思ひまして。

高杉議長

いいですか。那珂川は、今年昨年と、6月から7月中旬まで釣れなかったですよ。評判が悪かったんですけども、中旬以降は釣れ始めます。特に、町裏あたりで色々な大会をやっている、支流の箒川でもかかり始めました。ですから、那珂川は全然ダメということではなくて、何か状況があったんでしょう。ただ、那珂川は雷雨で水が出たので、久慈川と違ってリセットされたので、那珂川は上がってくると思います。残念ながら、久慈川にはそういう増水の機会がないのですが、那珂川はこれから良くなると思います。ただ、解禁日や6月中に那珂川に行った人は、離れてしまったかもしれませんね。ちなみに、毎年良かったとされる米代川、阿仁川がダメなんです。今釣れるのは、新潟県の三面川で、束釣りできると評判なんです。栃木県的那珂川や久慈川でやっている人は、今週末は皆さん三面川に行くと思います。それと、どういう訳なのか、日本海側でも、良い河川と悪い河川がはっきりしているということで、ちょっと我々では分からないですが、先程もお話ししましたが、自然環境の変化なのか、人間の力では判断しかねる現象が起きています。那珂川はもう少し見てください、恐らくかかると思いますので。久慈川も1m以上の水が出て、川がリセットされれば、今止まっている天然アユが遡上しますので、だから盛夏から秋にかけてかかると思いますので、それに期待して下さい。

そのほか、ございませんか。

なければ、次に移りたいと思います。「(3)久慈川アユ釣り教室の開催状況について」説明をお願いします。

藤江係長

(資料4により説明)

高杉議長

ありがとうございました。この様子は、今朝の茨城新聞に出ていましたね。

藤江係長

今、会長がおっしゃられたとおり、本日、茨城新聞にアユ釣り教室の記事を掲載いただいているところです。

高杉議長

状況は悪かったんですが、生徒の皆さんが楽しかったとおっしゃっていたので、救われましたね。嫌になってしまうのかなと思ったりもしたんですけど、アユ釣りは楽しいと皆さんおっしゃっていて、疲れが吹き飛びましたね。ちなみに明日、大子で3回目をやるんですが、今までは2回とも金曜日の晩に福島の上流で雨が降って、大きな水ではなくて、濁りが入る水ですね、10cmから20cmの増水という感じで。今晚も心配しているんですが、関係者の皆さんは、天気予報を眺めて夜中やっているようです。なんとかいい条件で明日はやってほしいなと思っているんですけども。支流の押川ばかりで、本流で釣りができないんです。

皆さんの方で、他に何かございませんか。

なければ、次に移らせていただきます。「(4)第3期茨城県水産試験場中期

運営計画（令和4年度～令和7年度）について」説明をお願いします。

海老沢支場長

（資料5により説明）

高杉議長

ありがとうございました。ただいまの説明に、何かありましたらお願いいたします。

坂本委員、どうぞ。

5番 坂本委員

種苗生産に関して、県の方で予算はつけられないのですか。

海老沢支場長

シジミの種苗生産は直接漁協さんでやられておりますので、その技術指導ということで、それほど大きな予算ではありませんが、出張して指導するための経費などは既にごさいます。それに基づいて、一緒にどうやったらより良い種苗生産ができるのかということをやらせていただければと思います。

高杉議長

よろしいでしょうか。

5番 坂本委員

はい。

高杉議長

そのほか、ございませんか。

なければですね、次第7の「その他」に移ります。その他、何かございませ

か。特にないようですので、本日の議事は「その他」を含めて終了しました。

次回の委員会の日程について、事務局よりお願いいたします。

根本事務局長

はい、年間計画で、サケ資源有効利用調査について本日議題にする予定でしたが、次回の委員会で報告させていただこうと思います。次回の委員会の日程でございますが、8月31日（水）午後2時から、水戸合同庁舎の会議室で開催する予定しております。開催通知は、後日お送りさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

高杉議長

ありがとうございました。それでは、これもちまして本日の委員会を終了いたします。皆様のご協力により、円滑に議事進行できました。ご協力ありがとうございました。

閉会 午後3時17分

上記の記録の正確なことを認め署名する。

令和4年7月29日

議 長 _____

議事録署名人 _____
